

# 15 Cases

in Tochigi



栃木県男女共同参画地域推進員

# 活動事例集

～地域に届け! 私たちのACTION～

## はじめに

栃木県では、男女共同参画の推進体制の一つの柱として、「栃木県男女共同参画地域推進員」制度を設けております。推進員の皆様には、地域における男女共同参画の啓発活動の推進役として、それぞれの地域において男女共同参画の推進に取り組んでいただいていることに、深く感謝申し上げます。

この取り組みを更に進めていくため、男女共同参画の視点で地域活動に積極的に参画している推進員の活動事例の一部を事例集にまとめ、ご紹介することといたしました。推進員の皆様や、資料をご覧になったすべての方に、地域における活動のきっかけづくり、または活動の幅を広げるためのヒントとして役立ていただければ幸いです。

最後に、本書の作成にあたり、栃木県男女共同参画地域推進員をはじめ、市や町の担当者、その他多くの関係者の皆様から多大なご協力をいただきましたことに、厚くお礼申し上げます。

平成27年3月  
栃木県県民生活部人権・青少年男女参画課長 高橋 典子

# 目次

■ はじめに	1
■ グループ編	
Case1 おおひら男女共同参画をすすめる会(栃木市)	3
Case2 グループ・わっくる(佐野市)	5
Case3 栃木県男女共同参画地域推進員日光市連絡会(日光市)	7
Case4 ぐるーぷフレソン(大田原市)	9
Case5 男女共同参画啓発活動団体“グループあい”(矢板市)	11
Case6 栃木県男女共同参画地域推進員那須塩原市連絡会(那須塩原市)	13
Case7 栃木県男女共同参画地域推進員会那須支部(那須町)	15
Case8 自分力アップ「和み(なごみ)」(宇都宮市など)	17
Case9 となりのグランマ(宇都宮市など)	19
■ 個人編	
Case1 金田 久美子さん(宇都宮市)	21
Case2 小林 静子さん(足利市)	22
Case3 福田 万里子さん(鹿沼市)	23
Case4 渡邊 能辰さん(さくら市)	24
Case5 山口 容子さん(下野市)	25
Case6 高田 美代子さん(壬生町)	26
■ 県・市町男女共同参画担当課等一覧	27
■ 栃木県男女共同参画地域推進員として一緒に活動しませんか?	28
■ 栃木県男女共同参画地域推進員申込書	29

## グループ:Case1

### おおひら男女共同参画をすすめる会



栃木市

## ともに認めあい支えあう夢ふくらむまちづくり



### DATA

代表者氏名:若菜 貞子

メンバー:26名(女性21名、男性5名)

活動頻度:月1回定例会、年1回つどい開催  
その他、地域・学校の要望に応じ出前講座を実施

### 発足のきっかけ・経緯

平成12年、男女共同参画社会づくりの観点に立って「輪のまち大平実行委員会」を組織し、文部科学省の委嘱事業を受けました。その後、平成15年、「おおひら男女共同参画プラン」策定に関わった委員と共に「おおひら男女共同参画をすすめる会」を改めて組織し、プランの実現を目指した啓発活動を開始し、現在に至っています。

### 主な活動内容

#### ①「おおひら男女共同参画のつどい」

(年1回男女共同参画週間(※6月23日~29日の1週間)内に実施)

年度ごとに社会の必要課題を話し合い、テーマを定め、市内住民を対象に開催しています。つどいの内容は講話や問題提起の創作朗読劇、ワークショップからなります。また、図書館に依頼して、テーマに関連した内容を図解した展示を行っています。



#### ②「朗読劇&寸劇」の創作と上演

①のつどいのテーマに合わせて会員が台本を創作し、参加者に身近な具体的な事例の中にある問題への気づきを与えるために上演しています。台本は現在13作品にもなり、「とちぎ県民のつどい」や出前講座でも上演し、好評を博しているところです。



### ③ メッセージ紙芝居 「ももこの大作戦」の作成と上演

(平成22年度完成)

固定的性別役割分担の意識にとらわれない男女平等意識を醸成するためには、学校教育こそが大切であるとの会員の総意により、紙芝居を作成しました。完成以後、教育委員会等の理解を得ることができ、市内外の小中学校や、関連団体からも声がかかり、上演しています。



## もっと教えて! Q&A

**Q 1** この活動を行うことで、どのような啓発効果を感じましたか?

**A 1** おおひら男女共同参画のつどいのアンケート結果から、「密度が濃かった」「男性は参加しにくいと思っていたが、次回も参加したい」「育児・介護には男性の協力が必要」「講話後の朗読劇は理解しやすい」等の記述を見て、啓発の効果を実感しました。また、小中学校での紙芝居上演後、子供たちのお礼の手紙の中に、会員が伝えたいメッセージを捉えた文章を見ることができました。

**Q 2** この活動で困難だったことはありましたか?  
また、どのようにその困難を乗り越えましたか?

**A 2** つどい等の参加者が比較的高齢の女性に偏っていたので、広報やちらしの配布に加えて、関連団体への案内や自治会長、PTA役員に直接働きかけたことで、男性や若い女性の参加を促すことができました。会員が高齢化し、夜の定例会への出席が難しくなっていることについては、今後の会の運営に関わる課題として現在検討しているところです。

## 今後の取り組み・目標

現在の活動は、参加者を募る形態が多いですが、地域に出向く出前講座による啓発が効果的と考えており、今後積極的に取り組みたいと思います。運営資金の減少など、活動が困難な状況になりつつありますが、有意義な活動を続けるために克服していきたいです。

## 活動PRを一言!

「ともに認めあい、支えあう夢ふくらむまちづくり」を目指して、あらゆる人が手を携え、住みやすい地域社会をつくりましょう!



## みんなで手を携えて男女共同参画の輪を広げよう!



### DATA

代表者氏名: 稲毛 明子

メンバー: 13名(女性10名、男性3名)

活動頻度: 月1回定例会、毎年佐野市楽習講師フェアへの参加、公民館・市男女共同参画推進センター・他市町での講座等で出前講座の実施

### 発足のきっかけ・経緯

合併により新佐野市が誕生した平成17年に、男女共同参画地域推進員の有志で結成したグループです。佐野市で以前より活動していた「プロジェクト・人」の出前講座方式を受け継ぎ、クイズやコントによる受講者参加方式の親しみやすく分かりやすい講座を通じて、男女共同参画を地域の方々へ広げていきたいと思って、活動しています。

### 主な活動内容

#### ① 公民館での出前講座実施

- ・植野いきいきセミナー(平成26年6月12日佐野市植野地区公民館)
- ・吾妻はつらつセミナー(平成26年6月19日佐野市吾妻地区公民館)

公民館の年間企画講座の一つで、「クイズと川柳で楽しく考えよう～男性も女性も生き生き暮らせる社会とは?」をテーマに開催しました。講座を通して、男性も女性も共に生き生きと長生きできるためのヒントを得てもらえるよう、クイズやコントを実施しました。



#### ② 佐野市楽習講師フェアへの参加

(平成26年3月1日～2日)

一般市民対象のフェアにて、「佐野市と男女共同参画その2」と題して、佐野市や国の男女共同参画の推進状況についての展示とクイズを実施しました。クイズでは、参加者との答え合わせをしながら意見交換を行いました。





## 男も女も助け合い支え合うことが男女共同参画社会の基本です



### DATA

代表者氏名:加藤 幸子

メンバー:12名(女性11名、男性1名)

活動頻度:毎月1回定例会(第3月曜日)、市や県のセミナーやフォーラム等に参加、他団体との交流会の開催

### 発足のきっかけ・経緯

市町村合併前は各地域でそれぞれ活動していましたが、2市2町1村が合併して新日光市となったことから地域推進員も一本化し、平成20年2月に「日光市連絡会」として発足しました。平成24年度から活動を本格化させ、啓発チラシや朗読劇の台本を作成し、日光市内5地域(日光、今市、藤原、足尾、栗山)の男女共同参画の推進のため、市行政担当課と共に活動しています。

### 主な活動内容

#### ① 日光市男女共同参画セミナー開催時に朗読劇で参加

平成24年度から市内5地域で実施している日光市の男女共同参画セミナーで、自作の台本による男女共同参画に関する朗読劇や啓発クイズを行っています。



#### ② 男女共同参画社会フォーラムin日光に参加

フォーラムでは、朗読劇やアンケート調査を実施しました。アンケート調査では、男女共同参画社会の設問ごとにシールを貼ってもらったところ、多くの参加者から貼り切れないほどの意見をもらいました。



#### ③ とちぎ県民のつどいでの朗読劇の発表

サルカ二合戦をモチーフに家庭内暴力を考える朗読劇を行い、DV防止に関する啓発にも取り組んでいます。



### ③ パレットプラザさの講座を主催 (平成26年1月18日)

市から委嘱された団体企画講座として、「これって恋愛?～寸劇と朗読で考えるデートDV～」と題し、おおひら男女共同参画をすすめる会のメンバーを招き、デートDVについての寸劇と朗読をお願いしました。その後、グループ・わっくるによる日常生活から男女共同参画について考える川柳コントを行い、講座終了後は、参加者間でグループ討議を実施しました。

## もっと教えて! Q&A

**Q 1** この活動を行うことで、どのような啓発効果を感じましたか?

**A 1** 受講者参加方式なので、ただ話を聞くだけでなく、受講者に考えてもらうことができ、多くの気づきを持ってもらえたと思います。また、楽習講師フェアでは、高齢者から小学生まで、幅広い年齢層の人と話すことができ、男女共同参画をよく知らない方にもPRできたと思います。

**Q 2** この活動で困難だったことはありましたか?

また、どのようにその困難を乗り越えましたか?

**A 2** 男女共同参画というテーマは一般に馴染みがなく、取りつきにくいようで、依頼を待っているだけでは出前講座の申込はあまりありませんでした。そこで、市の教育委員会に楽習講師登録を行い、楽習講師フェア等に参加することにより、一般市民と触れ合う機会を増やしました。市の人権・男女共同参画課を通じて、公民館の講座などに活動を紹介してもらうなどして、徐々に活動の場を増やしています。

## 今後の取り組み・目標

女性の活躍推進の掛け声は大きくなっていますが、実態は依然として変わっていないことがまだ多いと思います。女性が生きやすい社会は、男性も生きやすい社会であると考えています。

地域の方々の考えを知るとともに、気付かないうちに刷り込まれている意識があることを地域の方々に知ってもらい、少しでも良い方向に変えていけるような、楽しく、分かりやすい講座等を工夫して行っていきたいと思います。

## 活動PRを一言!

男女共同参画ってな～に?男性も女性も生き生き暮らせる社会とは?  
クイズやコントで楽しく一緒に考えましょう!



#### ④ 映画「人生、いろどり」の上映会を開催

(平成25年度)

映画「人生、いろどり」は男女共同参画社会にふさわしいと会員で考え、一丸となって映画会を開催しました。予想以上の人が集まり、成功を収めることができました。



#### もっと教えて! Q&A

**Q 1** この活動を行うことで、どのような啓発効果を感じましたか?

**A 1** 市の男女共同参画セミナーなどで地域での啓発活動を行った際に、地域による温度差を若干感じたので、市内の地域別温度差を少しでもなくしていく活動をしていきたいです。とちぎ県民のつどいや市フォーラムをはじめ、今後も精力的な活動を続けていきたいです。

**Q 2** この活動で困難だったことはありませんか?  
また、どのようにその困難を乗り越えましたか?

**A 2** 会員それぞれの都合もあり、定例会などに全員参加することは少なく、台本づくりに携わる会員は限られてしまいますが、お互いのコミュニケーションで乗り越えてきました。現在の課題としては、発足した当時は会員も多くいましたが、活動を本格化させるまでの期間で会員の数が減ってしまい、新たに会員を募集しても応募者がいないことです。今後も精力的に会員募集を続けていきたいです。

#### 今後の取り組み・目標

- ・会員の研修会を行い、朗読劇だけでなく他の方法等も研究し、地域に男女共同参画社会の意識向上を推進していけるようにしていきたいです。
- ・少人数の団体なので、地域に会の名前を知ってもらえるような第2弾の啓発チラシの作成や朗読劇の新しい台本を作成していきたいです。
- ・他団体との交流会を行い、情報交換しながら自分たちの会にもできるものを取り入れることも考えていきたいです。

#### 活動PRを一言!

「誰もが安心して暮らしやすい社会」が男女共同参画社会、ということを目指して取り組んでいきます!



## ジェンダーにしばられない社会をめざして



### DATA

代表者氏名:高橋 まり子

メンバー:11名(女性11名)

活動頻度:毎月第3火曜日19:00~定例会  
(8月、9月を除く)

その他、出前講座を実施

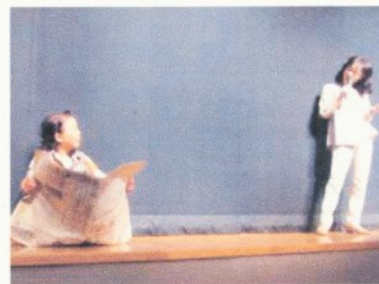
### 発足のきっかけ・経緯

平成18年に、栃木県男女共同参画地域推進員大田原市連絡会の有志で、出前講座のために、ぐるーぷクレソンとして活動を開始しました。コント川柳や漢字説明、クイズなどを通じて、男女共同参画の理解を深めるために、情報を伝える場を提供してきました。台本は最初、佐野市の「グループ・わっくる」を参考にし、その後、本や新聞、インターネットを活用して、メンバーが作った台本でコントやクイズなどを実施しています。

### 主な活動内容

#### ① 一人ひとりが輝く大田原のつどいにて、 出前講座を実施 (平成25年度)

講演の幕間で、親しみのある方言や口調によりジェンダーについてのクイズとコントを行いました。



#### ② 市男女共同参画審議会で 出前講座を実施 (平成25・26年度)

平成25年度は、お爺さんとお婆さんが仕事を取り替えたら、お互いの大変さに気づくという内容の、モモタロー・ノー・リターン(桃太郎)を題材にした「桃子ちゃん」の寸劇を行いました。

平成26年度は、ワーク・ライフ・バランスを考えるためのコントとクイズを行いました。



(平成25年度)

(平成26年度)

### ③ 市の女性の海外研修における事前研修にて、出前講座を実施

(平成25年度)

「皿洗い手伝うよ」(ワーク・ライフ・バランス)、「夫婦の寸劇」(クレソンの活動を例にして)のコント川柳を演じ、「みんなちがって…」という絵本の読み聞かせも挿入しました。受講者に出前講座を見た感想等のアンケートを書いてもらうことで、今後の活動にも生かしています。

#### もっと教えて! Q&A

**Q 1** この活動を行うことで、どのような啓発効果を感じましたか?

**A 1** 男性からは、「自分の家庭を見直すきっかけとなった」という声があり、また、女性からは、「夫に見せて、家庭での男女共同参画を知ってほしいと思った」という声を聞くことができました。コント実施時には、衣装や方言を使う工夫をすることで、聞いた人にも身近に感じてもらえ、楽しく内容を受け入れてもらえるということが分かりました。

**Q 2** この活動で困難だったことはありましたか?

また、どのようにその困難を乗り越えましたか?

**A 2** メンバーの勤務状況、家庭状況の変化、高齢化により、定例会や出前講座への参加人数が少なくなり、活動が難しくなっています。しかし、この状況をポジティブに捉え、出前講座のないときはコツコツと勉強し、出前講座の作品を増やすために題材を持ち寄るなどして、質の高い定例会を開き、活動を続けています。

#### 今後の取り組み・目標

- ・女性だけのグループなので、男性にも入会を働きかけたいです。
- ・これまでは家事・育児を題材としてきましたが、介護やDV、地域活動、職場等題材の幅を広げていきたいと思っています。
- ・「ぐるーぷクレソン」の活動内容をもっとPRしていきたいです。

#### 活動PRを一言!

男女共同参画、カジダン、イクメンなどということばが必要ない、自然な男女共同参画社会になって、仲良く幸せな社会を目指しましょう!!



## 認めあい 分かちあい 補いあう 男女共同参画社会をめざして



### DATA

代表者氏名:坪山 岩男

メンバー:16名(女性9名、男性7名)

活動頻度:全体会は年2回(総会、全体会議)。その他「企画部」は年3回、「広報部」は年8回程度集まり、「託児部」は個別の依頼に応じて全員で対応。

### 発足のきっかけ・経緯

平成21年に、男女共同参画社会の実現のため、矢板市在住の「栃木県男女共同参画地域推進員」の中から、啓発活動を行う団体を組織しました。

会員の活動は、全体で活動するほかに、「企画部」、「広報部」、「託児部」に分かれて、専門的な活動も展開しています。

### 主な活動内容

#### ① 啓発クイズの実施

「やいたみんなのつどい」や「ともなりまつり」など各種イベントを活用して、男女共同参画や子育て、人権等に関する啓発クイズ(〇×クイズ)を実施しています。



#### ② 啓発活動紙「グループあい」の発行

男女共同参画社会の実現へ向けた活動等を周知するため、「グループあい」の活動を掲載した活動紙(年2回)、男女共同参画の内容を広く啓発するための広報紙(年1回)を発行しています。



#### ③ 託児ボランティア

保護者が公民館活動(講座等の受講)や学校でのPTA活動を行っているときに、子供の見守りを実施しています。



#### ④ 就学時健康診断時「子育て学習」の実施

就学する直前に行われる健康診断の際に、保護者に対して啓発朗読劇を実施しています。啓発朗読劇は、家庭と仕事を両立させるヒントや、男女が共同して子育てをすることの大切さを伝える内容で実施しています。



#### もっと教えて! Q&A

Q 1 この活動を行うことで、どのような啓発効果を感じましたか?

A 1 結成して5年が経過しましたが、啓発クイズや紙人形劇等を通じて、男女共同参画に対する理解が広がってきていると感じています。

Q 2 この活動で困難だったことはありましたか?  
また、どのようにその困難を乗り越えましたか?

A 2 啓発活動自体の理解が低いため、グループ単独でのPR活動が実施できませんでした。

そのため、各種イベントへ参加し、イベントを利用して啓発活動を行ったり、イベントの場でグループの活動PRをすることで、解決を図っています。

#### 今後の取り組み・目標

今後も、男女共同参画社会の実現に向け、少しずつでも市民の皆さんに理解を深めてもらえる活動をしていきたいと考えています。また、新しい仲間に参加してもらい、新たな風を取り入れ、一緒に活動していきたいです。

#### 活動PRを一言!

「認めあい 分かちあい 補いあう 男女共同参画社会をめざして」のキャッチフレーズのもと、様々な啓発活動を引き続き実施していきます!





## 劇団「かんかん」で、地域に「気づき」を広めます！



### DATA

代表者氏名:伊吹 桂子

メンバー:21名(女性16名、男性5名)

活動頻度:出前講座や広報紙の発行等の事業に応じて、  
随時会合や活動を行っています。

### 発足のきっかけ・経緯

市町村合併により那須塩原市が誕生してから、旧黒磯市、旧西那須野町、旧塩原町でそれぞれ活動していた地域推進員が一つの連絡会を結成しました。寸劇を通して男女共同参画社会実現のための啓発を行うこととして、劇団「かんかん」を発足しました。

### 主な活動内容

#### ① 市の男女共同参画セミナーの企画運営

平成24年度は、パパと子どもの料理教室、平成25年度からは、市内の高校で「デートDV防止」の出前講座(寸劇とワークショップ)を継続して実施しています。



#### ② 市の男女共同参画広報紙「みいな」の編集・発行に協力

市で発行する男女共同参画広報紙「みいな」の編集・発行に携わり、取材活動を通して地域に男女共同参画を発信しています。また、事業所や市内スーパー、商業施設等に配布・設置をして、啓発活動を行っています。



### ③ 男女共同参画行政施策のチェックと提案

市の男女共同参画行政施策に対し、意見・提案を行っています。



#### もっと教えて! Q&A

**Q 1** この活動を行うことで、どのような啓発効果を感じましたか?

**A 1** 高校生に「デートDV」の事例を寸劇で伝えることにより、より身近に感じてもらい、様々な暴力の存在に気づいてもらえました。寸劇を観た後、各クラスに分かれてのワークショップでは、子どもたちに「人はそれぞれ違った考えを持っている」という新たな「気づき」を与えることができた実感しています。

**Q 2** この活動で困難だったことはありましたか?

また、どのようにその困難を乗り越えましたか?

**A 2** 子どもたちに積極的にワークショップへ参加してもらうには、ファシリテーターとしてのスキルがまだまだ足りないと感じています。一人ひとり担当者の責任が重いので、今後、会全体として研修を重ねて乗り越えたいと考えています。

#### 今後の取り組み・目標

よりたくさん子どもたちに「気づき」を与えるために、未実施の高校へも出前講座を広げるほか、できれば、中学生にも実施したいと考えています。また、子どもだけでなく、大人に向けた男女共同参画意識の啓発も継続して行い、市の施策にも積極的に関わっていきたいと思います。

#### 活動PRを一言!

劇団「かんかん」を観れば、「先入観」が吹き飛んで「感動」!!



## グループ:Case7

栃木県男女共同参画地域推進員会那須支部



那須町

知恵と力を出し合って、<sup>とも</sup>男女に生かそう!家庭から、地域へ



### DATA

代表者氏名:吉田 文枝

メンバー:12名(女性12名)

活動頻度:随時必要に応じて活動  
(平成26年度は、4月~12月にかけて5回)

### 発足のきっかけ・経緯

とちぎ男女共同参画センターで実施している「とちぎ女性政策塾」の受講修了生を中心に、平成18年6月に結成し、講師を招いた「DVについて」などの研修会や町と協力して男女共同参画セミナーを開催しておりました。近年は、町女性団体連絡協議会の構成団体の一つとしての活動がメインでしたが、平成26年度は、会員の熱意と町の企画が合致し、男女共同参画セミナー共同開催の運びとなりました。

### 主な活動内容

#### ① 男女共同参画セミナーの開催 (平成26年10月25日)

基本方針を「男女共同参画は、まず家庭から」と位置づけ、幅広い年代の方に参加してほしいとの思いから、地域柄多いと思われる3世代家族を中心に、夫婦、嫁姑、孫との関わりなど家族について考え、そして地域の人々とのつながりへと発展させることを狙いとししました。

これらのことを念頭に、講演会形式でセミナーを開催することとして、町生涯学習課と打ち合わせを重ねてきました。講師を、臨床心理士の丸山隆先生にお願いして、チラシを作成し、関係各方面へ呼びかけ、参加者を募りました。

セミナー当日は、先生の分かりやすい事例紹介や愉快的語り口により、有意義な研修となりました。





## ② みんなの集いin那須への協力 (平成27年2月1日)

町女性団体連絡協議会の構成団体として、参加協力をしました。今年度は、「男女(とも)に高齢化社会を考えよう」をテーマに研究発表や朗読劇、さらには男女共同参画について落語と歌による講演を行いました。



## もっと教えて! Q&A

Q 1 この活動を行うことで、どのような啓発効果を感じましたか?

A 1 セミナーでは、テーマを3世代家族にしたことや、講師の丸山先生の教え子が来てくれたことなどにより、男性や若い世代の参加者が増えました。また、先生の心理の話を聞き、家族について考え、来てよかったと来場者から言ってもらえました。

みんなの集いでは、イベントが定着したことや、皆が関心のあるテーマにしたことにより、男性を含め参加者が増え、私たちの活動を発信することができました。

Q 2 この活動で困難だったことはありましたか?

また、どのようにその困難を乗り越えましたか?

A 2 セミナーでは、開催決定から実施までの時間が短かったことなどにより、十分な準備や広報活動ができなかったこと、みんなの集いでは、少ないメンバーで発表内容や朗読劇のシナリオをまとめることなど、様々な問題がありました。

しかし、会員の行動範囲の中でチラシを手配りして参加を呼び掛け、少ないメンバーで総力をあげて取り組めば何とかできると感じました。

## 今後の取り組み・目標

セミナーの開催などを通じて会員の士気が上がってきたので、さらなるレベルアップのためにも、パーティの出前講座などを利用して研修会等を開催していきたいです。

また、参加型の男女共同参画セミナーを毎年開催し、啓発活動を展開していきたいと考えています。

## 活動PRを一言!

女性が元気なら、社会はもっと元気になれる。自分のスタンスでまずは家庭から、そして地域へ。ともに学び、できるところから実践していきたいと思えます!



## Let's play 和みの寸劇



### DATA

代表者氏名:阿久津 里美

メンバー:7名(女性6名、男性1名)

活動頻度:定例会(毎月第2水曜日)

寸劇練習・小道具製作(イベント参加の2~3ヶ月前より)。  
年2回寸劇発表

### 発足のきっかけ・経緯

平成21年度パーティで開かれた男女共同参画セミナー「ステップアップコース」参加者の有志により、仲間づくりを主体にした自分力アップの集まりとして発足しました。

第1章:メンバーが各自の得意分野で学びあい、教えあうことによって自分力アップにつながることを当面の目標において活動してきました。

第2章:現在は目標の明確化を図り、男女共同参画に関する「寸劇」に軸足を置いて活動しています。

### 主な活動内容

#### ① パルティのステップアップ講座「先輩たちに聞く」に参加

I 寸劇「ある家族の日曜日」～男らしく女らしく～(平成24年9月29日)

II 定例会の様子と寸劇練習風景の再現劇(平成25年9月28日)

#### ② 「とちぎ県民のつどい」に参加

I 寸劇「今度はお父さんの番ね」～夫の育休取得～(平成25年6月23日)

・男女共同参画に関する統計データをプロジェクターを使って紹介し、クイズを3題出題するなど、会場参加型としました。

II 寸劇「男女の役割って?」～ある家族の会話より～(平成26年6月29日)

・寸劇の成果が会場に認められたことを実感しました。

#### ③ 「フェスタinパーティ」に参加

I 寸劇「今度はお父さんの番ね パート2」～夫の育休取得～(平成25年11月16日)

・②のIで発表した内容を一部修正・補足して発表しました。

## II 寸劇3話 (平成26年11月15日)

第1話「小児科の待合室での会話」

第2話「夫婦で共に頑張ろう」

第3話「独り身になったお父さん」

・いずれも台詞の補助としてフリップを活用した寸劇としました。



### もっと教えて! Q&A

**Q 1** この活動を行うことで、どのような啓発効果を感じましたか?

**A 1** 劇披露の後、多くの方から「男女共同参画の講義を受けた時よりも、より理解が深まり、納得できた」等の評価が得られました。

また、問題や対策は知っているだけでは無意味であり、生活習慣や意識を具体的に変えることが求められています。その手段として、寸劇は大変有効です。

さらに、寸劇を演じ、他人に見てもらうことで、メンバー自身の意識の変化につながる効果が期待できます。

**Q 2** この活動で困難だったことはありましたか?

また、どのようにその困難を乗り越えましたか?

**A 2** 指導者も見つからず、シナリオ作成のノウハウも分からないまま手探りの状態から始めました。話し合いを続けるうちに、個性を生かした役割分担ができました。

私たちのシナリオは、「原型を作成 → メンバーで検討 → 台本読みの中で修正」し、思いの共有、演技は習うより慣れろ、まず発表ありきで進めました。

### 今後の取り組み・目標

シナリオの内容充実を図りたいです。加えて、「子どもにとっての男女共同参画」、「高齢者の社会参画」、「外国人が安心して暮らすための情報提供」等、範囲を広げていきたいです。また、演技力スキルの研修や発表の機会確保のための広報活動も積極的に行っていきます。

さらに、人形劇、ペープサート、電子紙芝居、シミュレーションゲーム等の発表方法も視野に入れて活動を行っていきたいです。

### 活動PRを一言!

見た事は覚えています。考えた事は忘れません。試した事はできるようになります。地域に、職場に寸劇をお届けします!声をかけてください!



## 頼ってもらえる、お隣のグランマを目指して



### DATA

代表者氏名:川鍋 節子

メンバー:12名(女性12名)

活動頻度:毎月第3(第4)土曜日に定例会

### 発足のきっかけ・経緯

平成24年度「とちぎ女性政策塾」を受講したメンバーで、研修終了後、“地域で子育てを応援したい”という思いから発足しました。

男女共同参画の視点から「子育て支援」と「シニア世代の生きがい、社会貢献」を見出し、女性の地位向上と明るい社会づくりに寄与することを目的とします。「となりのグランマ」とは、子育てで困ったときに、近くで手を差し延べられる“おとなりにいるおばあちゃま”＝“身近で頼れる身内のような存在でいたい”との思いから名づけました。



### 主な活動内容

#### ① 宇都宮市「第8回ときめく未来へ参画会議」での託児 (平成26年10月24日～25日)

男女共同参画の各種イベントに興味を示す、幼児を持つ親たちに安心して参画していただけるように、市男女共同参画推進センター託児室で2日間託児を担当しました。

2～4歳の子供たちものびのびと過ごせ、ママたちもゆっくり研修に参加できたと喜ばれました。

#### ② 株式会社「AsMama」への協力 (平成26年8月24日)

地域で子育て、つながりを求める親子が集まり、新しいまちづくりの一環として、高根沢町で託児を開催しました。初めて出会った親子と、私たちメンバーとの顔合わせをし、今後の「となりのグランマ」として、助け合う布石となりました。

### ③「フェスタinパーティ」でのアンケート実施

(平成26年11月15日)

パーティでの催しに訪れた親子を中心に、子育て支援「となりのグランマ」を知っていただくこと、そして子育てで困ったことや頼りたいことなどを直に伺うために、アンケート調査を実施しました。

標本数90を超え、皆さんそれぞれ支援を求めている状況の把握ができました。



## もっと教えて! Q&A

**Q 1** この活動を行うことで、どのような啓発効果を感じましたか?

**A 1** 仕事をしながら子育てをしていたり、子どもを連れて仕事をさがすことの難しさ、様々な悩みを抱えるママたちの問題を知ることができ、近くでサポートする「となりのグランマ」の必要性を確信しました。また、子育てを経験してきたシニア世代への働きかけや支援要請も大切なマンパワーだと改めて気づきました。

**Q 2** この活動で困難だったことはありましたか?

また、どのようにその困難を乗り越えましたか?

**A 2** メンバーそれぞれが、仕事や他の活動をしている中で、託児にかかる研修や打ち合わせへの全員参加が難しい状況です。

全員揃わなくても、集まれるメンバーを中心にとにかく前に進め、メール、LINE、クラウド等を駆使し、速やかな情報交換に努めました。集合時間を夜にしたり、時には宿泊研修などとして乗り越えました。

## 今後の取り組み・目標

メンバー一人ひとりの取組姿勢にふれがないように、年に数回の託児方法などの研修を継続していきます。また、行政の子育て支援事業実施の要望を実践していきます。

また、県北、県南にも親子交流の場を開催し、子育てはひとりではなく周りを巻き込んで、支援の手が近くにあることを知らせるため、シニア世代支援メンバーを増やしていきたいです。

## 活動PRを一言!

子育て支援を通じて、シニア世代への社会参加をし、経験を生かして、次世代によりそい手を差し伸べるひとりになりましょう。すぐそばで「となりのグランマ」を待っているママたちがいます。